

## 製品安全データシート

## 1. 化学物質等及び会社情報

製品の名称	ThreeBond 2706D
整理番号	kenkyukanri1396-1
会社名	株式会社スリーボンド
住所	東京都八王子市狭間町1456
担当部門	研究開発本部 研究管理課
電話番号	042-661-1367
緊急連絡電話番号	042-661-1367
FAX番号	042-669-7235
推奨用途及び使用上の制限	防錆剤・潤滑剤

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性	可燃性/引火性エアゾール 区分1 引火性液体 区分2
健康に対する有害性	急性毒性(吸入:ミスト) 区分4 皮膚腐食性/刺激性 区分3 生殖細胞変異原性 区分2 特定標的臓器/全身毒性(単回ばく露) 区分2(肺) 特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露) 区分1(皮膚 肺) 特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露) 区分2(肝臓 精巣)
環境に対する有害性	水生環境有害性物質・急性 区分2 水生環境有害性物質・慢性 区分2 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

## GHSラベル要素

## シンボル



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
極めて可燃性・引火性の高いエアゾール  
引火性の高い液体および蒸気  
吸い込むと有害  
軽度の皮ふ刺激  
遺伝性疾患のおそれの疑い  
臓器の障害のおそれ(肺)  
長期または反復暴露による臓器の障害(肺、皮膚)  
長期または反復暴露による臓器の障害のおそれ(肝臓、精巣)  
水生生物に毒性  
長期的影響により水生生物に毒性

注意書き  
安全対策

熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。一禁煙。  
裸火または他の着火源に噴霧しないこと。  
適切な保護手袋、保護眼鏡を着用すること。  
必要に応じて個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。  
気分が悪いときは、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。汚染された衣類を脱

救急措置

保管  
廃棄

ぐこと。

皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。  
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外して、その後も洗浄を続けること。洗浄後、医師の診断、手当てを受けること。

日光から遮断し、40℃を超える温度にばく露しないこと。

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

成分	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
鉱油	1～10%	—	—	—	—
ミネラルスピリット	1～10%	—	—	—	—
防錆潤滑剤	5%未満	—	—	—	—
HFC134a (噴射剤)	85～95%	C <sub>2</sub> H <sub>2</sub> F <sub>4</sub>	(2)-3585	2-(13)-48	811-97-2

分類に寄与する不純物及び安 なし

定化添加物

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及 鉱油  
び有害物（法第57条の2、  
施行令第18条の2別表第9）

ミネラルスピリット（ミネラルシンナー、  
ペトロリウムスピリット、ホワイトスピリ  
ット及びミネラルターペンを含む。）

### 4. 応急措置

吸入した場合

中毒を起こしたときは、直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、安静、保  
温に努める。医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。  
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して  
容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

医師の診断、手当てを受けること。  
口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
医師の診断、手当てを受けること。

### 5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、耐アルコール性泡消火剤、二酸化炭素、砂、噴霧水

特有の危険有害性

火災によって、刺激性、有害性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

加熱により容器が破裂するおそれがある。

消火作業を行う者は、保護具（保護眼鏡、保護衣、有機ガス用有毒マス  
ク等）を着用して、風上から消火する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護  
具および緊急措置

作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参  
照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収・中和

少量の場合、乾燥砂・土・ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に  
回収する。

二次災害の防止策

大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。  
すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項 火気厳禁。

保管

保管条件 容器を密閉して、直射日光や火気を避け、適切な温度で保管すること。保管温度範囲は、技術資料、納入仕様書、商品ラベル等を参照のこと。

容器包装材料 保管の際には、容器を移し替えないこと。また、容器から出したものの中に戻さないこと。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度、許容濃度

	管理濃度(厚生労働省)	許容濃度(産衛学会)	ACGIH
鉱油	未設定	3 mg/m <sup>3</sup> (鉱油ミスト)	5 mg/m <sup>3</sup> (鉱油ミスト) 0.2 mg/m <sup>3</sup> (提案値)
ミネラルスピリット(ミネラルシンナー, ペโตรリウムスピリット, ホワイトスピリット及びミネラルターペンを含む)	未設定		100ppm
HFC 134a	未設定		

設備対策 屋内作業場で使用の場合は、発生源の密閉化または局所排気装置の設置等の対策をする。  
取扱場所の近くに、安全シャワー、手洗い、洗顔設備を設け、その位置を明瞭に表示することが望ましい。

保護具

呼吸器の保護具 必要に応じて、有機ガス用防毒マスクを使用する。

手の保護具 適切な保護手袋(ポリエチレン製, ゴム製等の不浸透性素材のもの)を着用すること。

眼の保護具 保護眼鏡(ゴーグル型が望ましい)を使用する。

皮膚及び身体の保護具 必要に応じて保護前掛け、保護長靴などを使用する。

衛生対策

半袖の作業着の使用は避ける。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状 液体(内容液)

色 茶褐色透明

臭い 溶剤臭

引火点 42℃ (セタ密閉式)

比重(密度) 0.84

溶解性 水に難溶

ミネラルスピリット(ミネラルシンナー, ペโตรリウムスピリット, ホワイトスピリット及びミネラルターペンを含む)として

沸点、初留点及び沸騰範囲 >150℃

引火点 >38℃

HFC 134aとして

融点/凝固点 -101℃

沸点、初留点及び沸騰範囲 -26.15℃(1atm)

比重(密度) 1.202(25℃)

オクタノール/水分配係数 logP=1.06

粘度 0.204cp(25℃)

## 10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取扱いにおいては安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤と反応し、火災の危険をもたらす。
避けるべき条件	加熱。
混触危険物質	強酸化剤。
危険有害な分解生成物	燃焼すると条件によって有害ガス（一酸化炭素、フッ素系ガスなど）が生成することがある。

## 11. 有害性情報

急性毒性	
経口	製品としてデータなし
皮膚腐食性／刺激性	製品としてデータなし
ミネラルスピリット（ミネラルシンナー、ペトロリウムスピリット、ホワイトスピリット及びミネラルターペンを含む）として	
急性毒性：経口	EHC 187 (1996)のラットを用いた試験において5000mg/kgで死亡が認められなかったとの記述から、区分外とした。
急性毒性：経皮	EHC 187 (1996)にウサギを用いた試験において2000mg/kgで4例中1例が死亡したとの記述があるが、他のデータがなく、区分が特定できないことから、データ不足のため分類できないとした。
急性毒性：吸入（ガス）	GHS定義による液体である。
急性毒性：吸入（蒸気）	EHC 187 (1996)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (1995)のラットを用いた試験において8.2mg/Lの8時間暴露（4時間換算値11mg/L）で15例中1例が死亡したとの記述、EHC 187 (1996)のラットを用いた試験において5.5mg/Lの4時間暴露で死亡が認められなかったとの記述から、区分3または区分4の可能性があるものの、特定できないことから、データ不足のため分類できないとした。
急性毒性：吸入（粉塵）	データなし
急性毒性：吸入（ミスト）	データなし
皮膚腐食性／刺激性	EHC 187 (1996)のウサギの皮膚に4時間適用した試験において中等度の刺激性および軽度の浮腫が認められたとの記述から、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷／刺激性	EHC 187 (1996)のウサギの眼に適用した試験において24時間後には眼の反応が消失したとの記述から、刺激性の判定基準に適用しないと判断し、区分外とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器：データなし 皮膚：EHC 187 (1996)のモルモットを用いたBuehler testにおいて感作性は認められなかったとの記述から、区分外とした。
生殖細胞変異原性	生殖細胞を用いるin vivo経世代変異原性試験であるラットおよびマウスを用いた優性致死試験で陰性の結果（EHC 187, 1996, ATSDR, 1995）、体細胞を用いるin vivo変異原性試験であるマウス赤血球を用いた小核試験およびラット骨髓細胞を用いた染色体異常試験で陰性の結果（EHC 187, 1996, ATSDR, 1995）があることから、区分外とした。
発がん性	EUではカテゴリー2に分類されているが、判断の根拠が不明であり、ヒトでの疫学調査データはいずれも評価の対象としては不十分であるとの記述から、データ不足のため分類できない、とした。なお、NTPのStoddard solvent IICをラットおよびマウスに2年間吸入暴露した発がん性試験では、雄ラットにsome evidence of carcinogenic activity、雌マウスにequivocal evidence of carcinogenic activityが認められている（HSDB, 2005）、との記述がある。
生殖毒性	EHC 187 (1996)のラットを用いた妊娠中吸入暴露試験において母動物に一般毒性が認められる用量でも明確な生殖毒性は認められなかったとの記述から、区分外とした。
特定標的臓器／全身毒性（単回ばく露）	ACGIH (7th, 2001)およびEHC 187 (1996)のラットまたはイヌを用いた吸入暴露試験において活動性の低下、協調運動性低下、運動失調、振戦、痙攣などの一過性の神経系への影響を示唆する症状が認められたとの記

<p>特定標的臓器／全身毒性（反復ばく露）</p> <p>吸引性呼吸器有害性</p>	<p>述、ACGIH (7th, 2001)、EHC 187 (1996)およびATSDR (1995)のヒト暴露例で頭痛、吐き気、めまいなどの神経系への影響を示唆する症状および鼻の刺激性が認められたとの記述から、区分3（麻酔作用、気道刺激性）とした。</p> <p>EHC 187 (1996)のモルモットを用いた吸入暴露試験において肝臓への影響が区分2のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記述、ならびにNTP TR519のラットを用いた吸入暴露試験において精子運動性の低下が認められたとの記述（HSDB, 2005）から、区分2（肝臓、精巣）とした。</p> <p>炭化水素であって、かつwhite spiritの粘性率から算出される25℃の動粘性率は0.87-1.94 mm<sup>2</sup>/sであり40℃では20.5mm<sup>2</sup>/s以下であると推測されること、さらにPATTY (4th, 1994)、EHC 187 (1996)、ATSDR (1995)に誤嚥により化学性肺炎を引き起こす可能性があるとの記述があることから、区分1とした。</p>
--	--

## 1 2. 環境影響情報

### 環境に対する有害性

#### 水生環境急性有害性

製品としてデータなし

#### 生態毒性

データなし

ミネラルスピリット（ミネラルシンナー、ペトロリウムスピリット、ホワイトスピリット及びミネラルターペンを含む）として

### 環境に対する有害性

水生環境急性有害性：甲殻類（オオミジンコ）の48時間LC50=0.42-2.3 mg/L（EHC187、1996）から、区分1とした。

水生環境慢性有害性：急性毒性が区分1、急速分解性がなく（BODによる分解度：12-13%（EHC187、1996））、生物蓄積性が不明であることから、区分1とした。

## 1 3. 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することはしてはならない。

### 汚染容器及び包装

使用済みの容器・ウエス等も、残余廃棄物と同様に処理する。

## 1 4. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 海上規制情報

IMOの規定に従う。

#### UN No.

1950

#### Proper Shipping Name.

Aerosols

#### Class

2.1

#### 航空規制情報

ICAO/IATAの規定に従う。

#### UN No.

1950

#### Proper Shipping Name.

Aerosols

#### Class

2.1

### 国内規制

#### 陸上規制情報

消防法に従う。

#### 海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

#### 国連番号

1950

#### 品名

エアゾール

#### クラス

2.1

#### 航空規制情報

航空法の規定に従う。

#### 国連番号

1950

#### 品名

エアゾール

#### クラス

2.1

### 緊急時応急措置指針番号

126

## 15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）

消防法

第4類 第二石油類（非水溶性）

## 16. その他の情報

参考文献

(独)製品評価技術基盤機構(NITE)公表 GHS分類結果  
日本ケミカルデータベース(株) 化学品総合データベース

その他

- ・危険有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、記載事項は通常の実用を目的としたもので、特別な取扱いをする場合には、用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お取扱い願います。
- ・この情報は、新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・この製品安全データシートは日本国内向けに作成したものですので、無断での翻訳及び海外向けの交付はご遠慮下さい。製品を海外に輸出する場合には、仕向け国の法令・規制等について事前にご確認ください。
- ・製品の特性等に関するお問い合わせは、ご購入先の営業所または弊社お客様相談室までお願いします。お客様相談室 0120-56-1456